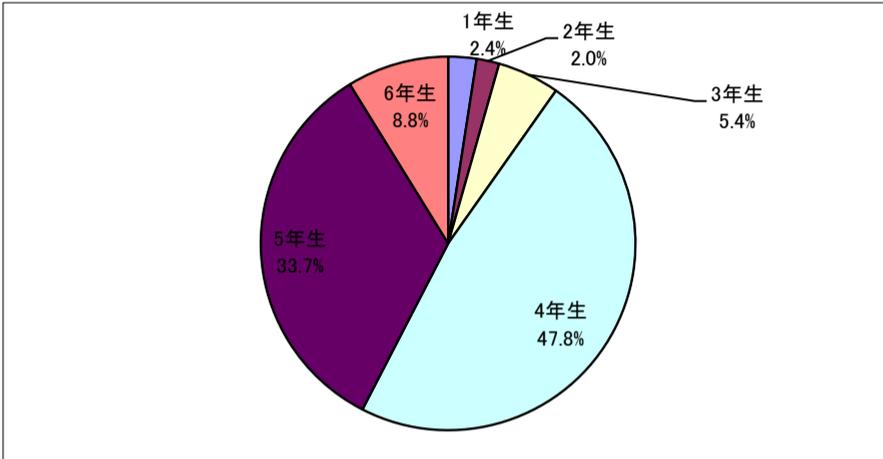


小学校・環境教育に関するアンケート集計結果(四国)

アンケート調査実施：H22年度
集計対象：徳島市・高松市・松山市・高知市の小学校 179校

【設問1】

(1) 全学年の中で、最も重点的に環境教育を実施している学年は？



◇複数の学年を回答した学校があったため、N=205(回答数合計)とした。

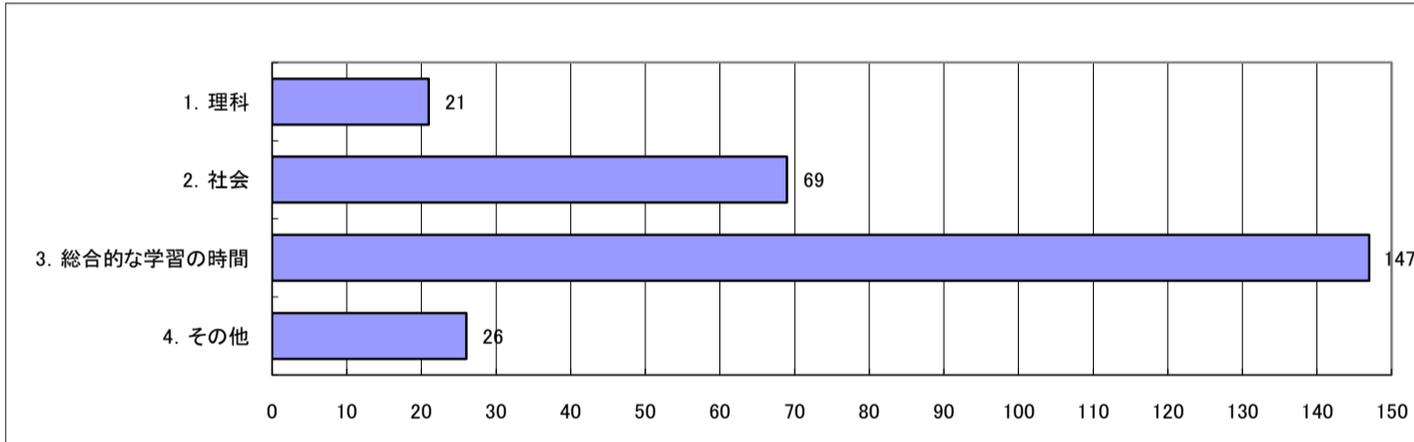
最も回答が多かったのは4年生で98校(47.8%)と約半数であった。次いで5年生が69校(33.7%)、6年生が18校(8.8%)であった。

以下、最も重点的に環境教育を実施している学年について回答を求めた。

(2) 環境教育は何の科目／授業として行っていますか？次の1～4の項目(グラフ参照)から選んでください。複数可。

◇N=263(各科目の回答数合計)

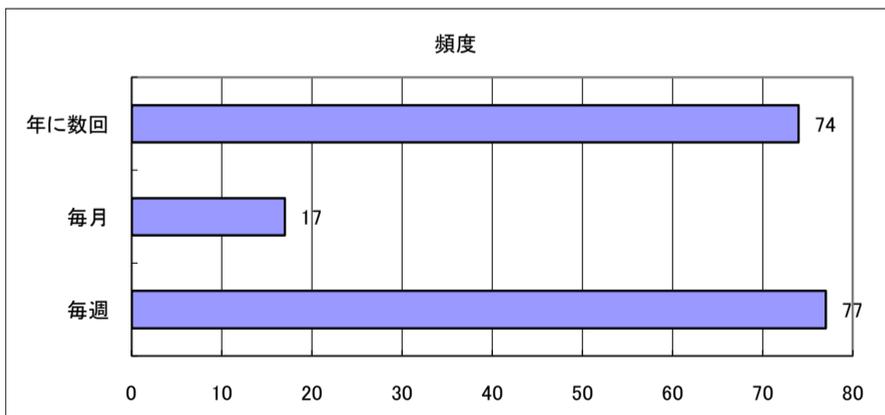
最も回答が多かったのは総合的な学習の時間で147校(55.9%)であった。次いで社会が69校(26.2%)、理科が21校(8.0%)であった。その他の回答が26校からあり、委員会活動・学校行事・特別活動などの教科外の活動、国語・保健・家庭科や食育、教科内で関連ある単元のところで触れているなど、多様な時間で行われていた。



(3) 環境教育の実施頻度、時間数はどのくらいですか？

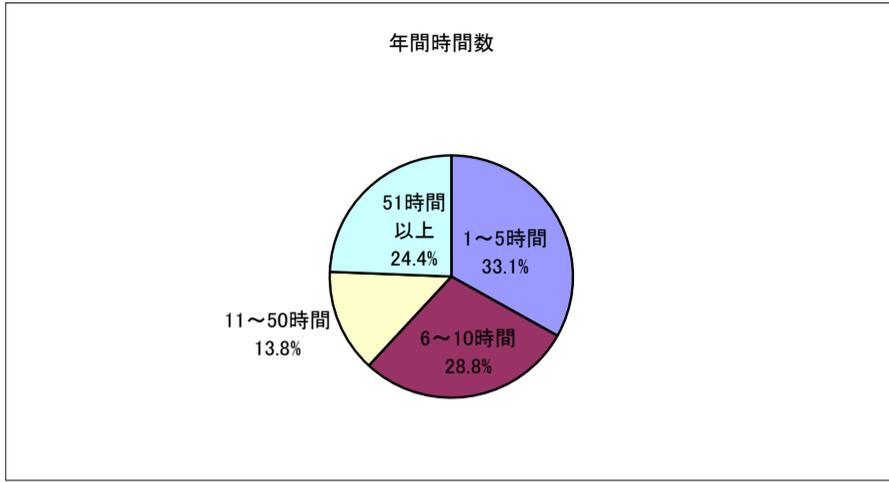
(年 回数、毎月、毎週、毎日)

合計 時間(年間)



◇N=168(回答校数)

毎週実施しているとの回答が77校(45.8%)と約半数であった。次いで年に数回が74校(44.0%)、毎月が17校(10.1%)であった。



◇N=160(回答校数)

年間の時間数は、1~5時間との回答が最も多く53校(33.1%)、次いで6~10時間が46校(28.8%)であった。51時間以上の回答も39校(24.4%)あった。

(4) 環境教育における主なテーマをご記入ください。

「〇〇の自然を守ろう」「〇〇博士になろう」など、地域名や川の名前などが入ったテーマが多く、身近な環境を調べ、保全のためにできる活動を考える学習が進んでいる。

特にごみと水に着目した学習が多かった。ごみについては、行方をたどり、どのように処理されているかを知り、減量、分別、リサイクルの活動につなげる取組みが見られた。水については、どこから来るか、どのようにしてきれいになるかを知る、節水する、などの活動があった。環境にやさしいまち・暮らしを考える学習に関連づけられている。公害や空気汚染、「環境悪化の原因を探ろう」など、社会問題からのアプローチも見られた。

また、身近な川・森林・海・干潟などをフィールドに、探検や調査を行い、どんな生きものがいるかを知ったり、森林などの働きや大切さを学び、自然環境保全の必要性や何ができるかを考える取組みも多かった。さらに植樹やごみ拾いなどを実施している学校も見られた。

米作り、エコ農業、栽培を実施している学校も複数見られ、生物多様性、食物連鎖、食育などに関連する学習が見られた。

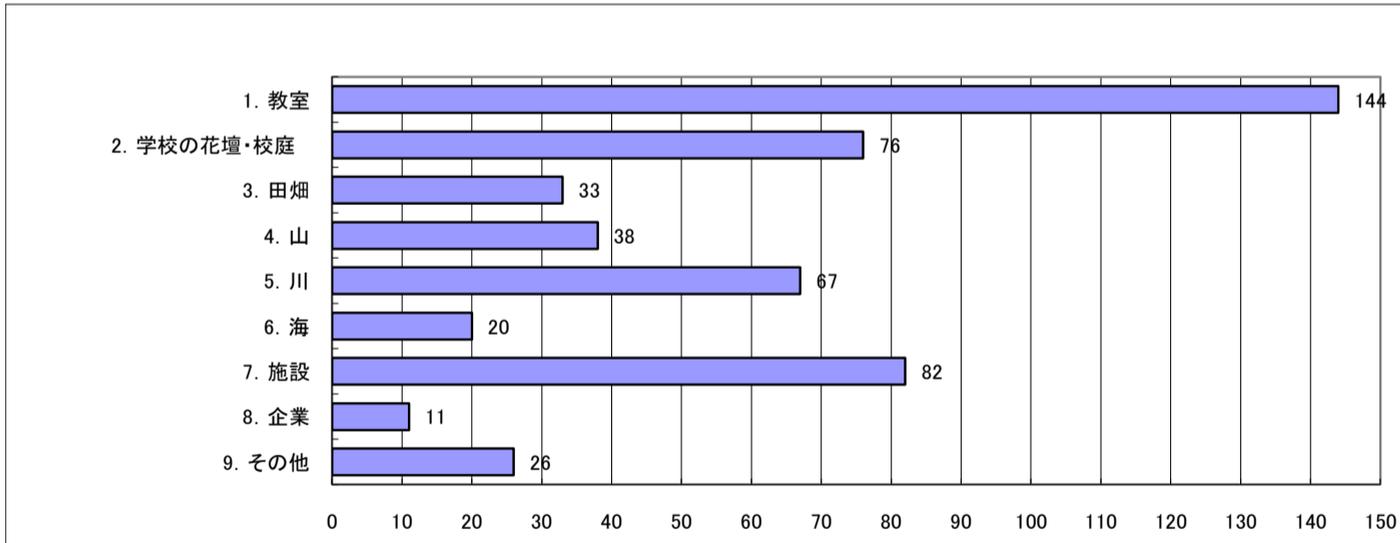
その他、ボランティア清掃、花いっぱい活動、緑化など、地域や学校の美化活動も多くの学校が実践していた。

大きなテーマとして、地球温暖化も多くの学校が学んでおり、さらに「地球環境とわたしたちの暮らし」「世界の人々とわたしたち」など、地球規模の事象と自分たちのつながりを考える学習もあった。

(5) どのようなフィールドで環境教育を実施していますか？次の1~9の項目(グラフ参照)から選んでください。複数可。

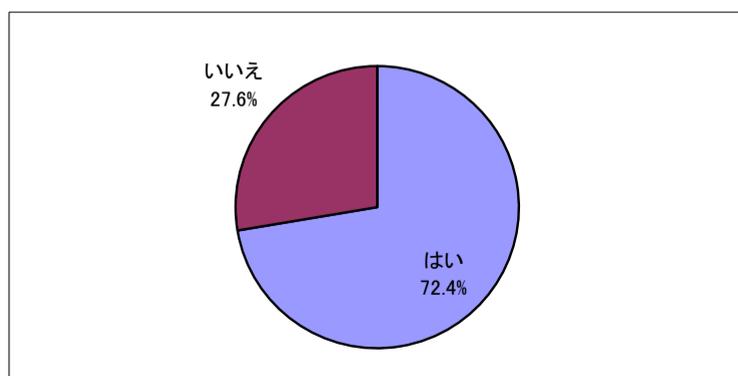
◇N=179

教室との回答が144校(80.4%)で約8割あり、学校の花壇・校庭も76校(42.5%)であった他、施設が82校(45.8%)で約5割あった。野外では、川が67校(37.4%)、次いで山が38校(21.2%)、田畑が33校(18.4%)などで、田畑・山・川・海をフィールドとしている学校は合計で158校(88.3%)と約9割に上り、野外での活動が広く実施されていた。企業でも11校(6.1%)が実施していた。その他として、公園・通学路・駅前花壇など地域の公共の場、ため池・湿原・ビオトープなどの水環境、自然の家や牧場などが挙げられた。



【設問2】

(1) 環境教育の実施にあたり、外部(企業、公民館、NPO、環境アドバイザーなど)の協力を得ていますか？



◇N=170(回答校数)

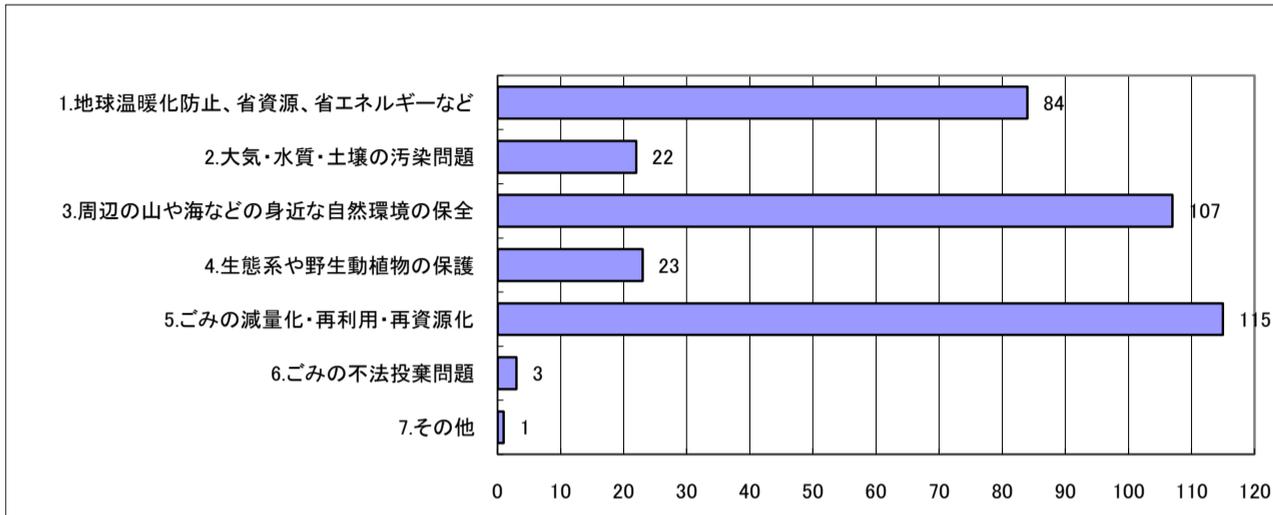
外部の協力を得ている学校が123校(72.4%)であった。

【設問3】

環境教育のテーマとして重要だと考える内容を、次の1～7の項目(グラフ参照)から2つまで選んでください。

◇N=179

「ごみの減量化・再利用・再資源化」との回答が115校(64.2%)と最も多く、次いで「周辺の山や海などの身近な自然環境の保全」が107校(59.8%)、「地球温暖化防止、省資源、省エネルギーなど」が84校(46.9%)であった。

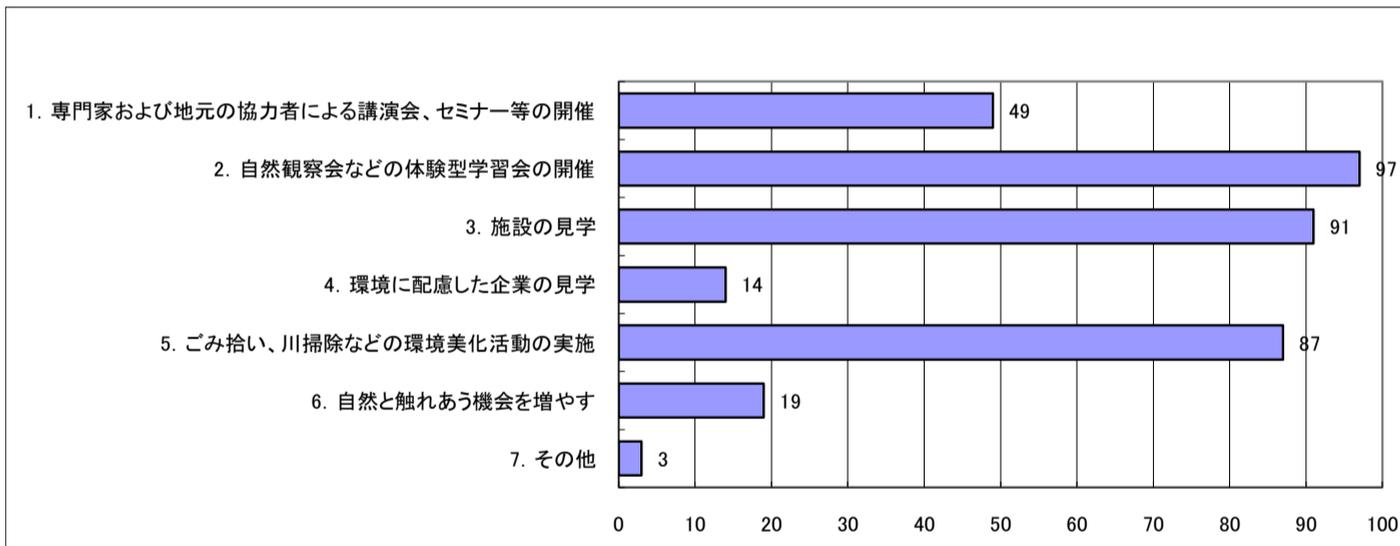


【設問4】

環境教育の実施内容として効果的だと考える内容を、次の1～7の項目(グラフ参照)から2つまで選んでください。

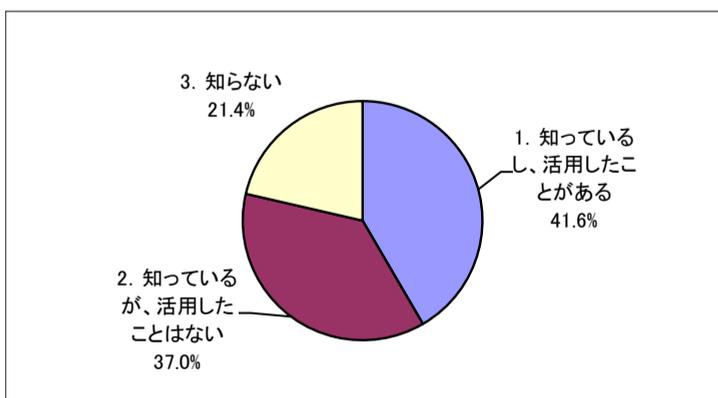
◇N=179

「自然観察会などの体験型学習会の開催」との回答が最も多く、97校(54.2%)、次いで「施設の見学」が91校(50.8%)、「ごみ拾い、川掃除などの環境美化活動の実施」が87校(48.6%)、「専門家および地元の協力者による講演会、セミナー等の開催」が49校(27.9%)であった。



【設問5】

(1) 行政や法人が行っている講師派遣制度を知っていますか？



◇N=173(回答校数)

「講師派遣制度を知っている」という学校は136校(78.6%)と全体の約8割であったが、その内「活用したことがある」学校は72校(52.9%)と約5割であった。「知らない」との回答は37校(21.4%)であった。

(2) 活用してみて、いかがでしたか？意見・感想をご記入ください。

設問5(1)で「知っているし、活用したことがある」と回答した72校に聞いた。

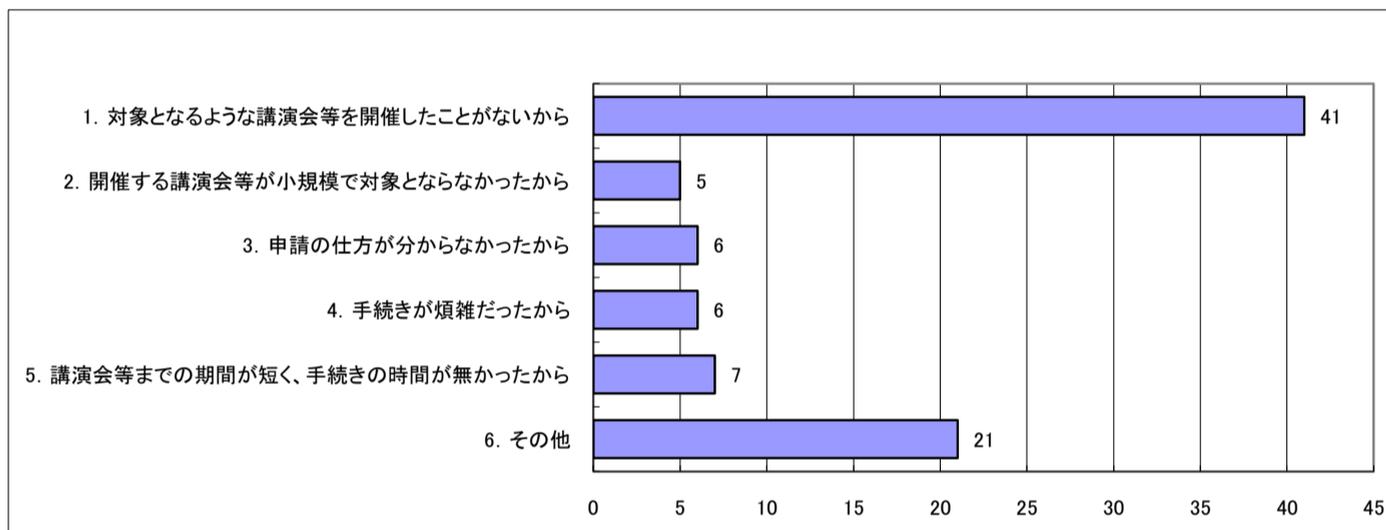
「具体的な話や正確な情報を知ることができ、豊富な知識で子どもたちの疑問に対応してくれた」「調査する視点・調べ方のアドバイスをしてもらえた」など、情報や知識の提供に対する満足度が高かった。また、薬品・用具を用いて実験や調査をしたり、ゲーム・リサイクル工作などの作業に対する評価も高く、実験のキットなどを持ち込んでもらったことで、効率的に実施できたとの感想があった。効果として、「児童の関心や意欲が高まった」との評価が多数あり、「自ら調べようとする児童が増えた」、「環境問題を実感として受け止められた」、「児童が主体的に学ぶことができ、家庭でも話題になってさらに実生活に生かせる」との保護者から感謝の声が聞かれた」などがあった。

一方、少数であったが、「講話は内容が難しかった」「専門的な話しをきけるのはよいが、分りやすい言葉だとより効果的である」「学ばせたいことや気付かないことにうまく対応してくれないこともある」など、外部講師にもっと児童向けの対応を求める意見があった。また、「一般的な事柄は教えてもらったが、地域にあった生物の情報については、十分でなかった」「学校側の求める内容と講師の方のテーマが合わないことがある」など、授業内容について学校と講師の方向性が一致していなかったケースが見られた。

(3) これまで、講師派遣制度を活用しなかった理由は何ですか？次の1～6の項目(グラフ参照)から選択してください。複数可。

◇N=64(設問5(1)で「知っているが、活用したことはない」と回答した学校数)

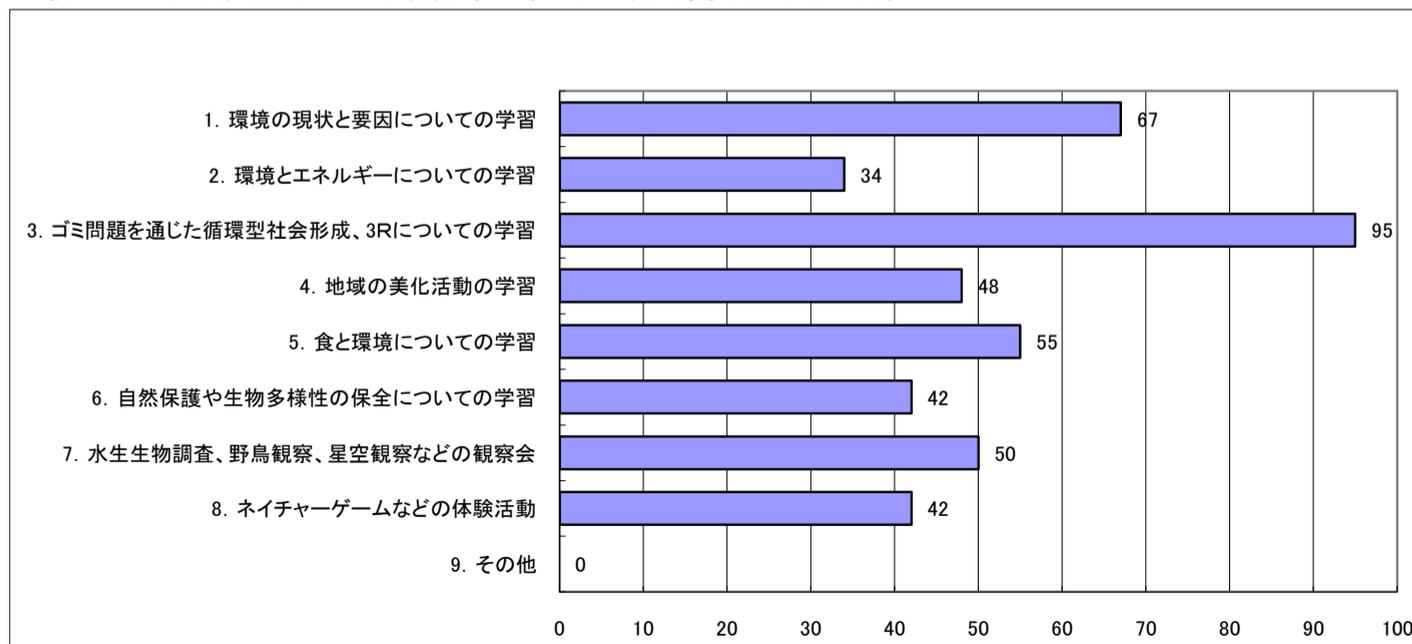
「対象となるような講演会等を開催したことがないから」が41校(64.1%)と最も多かった。次いで「講演会等までの期間が短く、手続きの時間が無かったから」が7校(10.9%)であった。その他が21校あり、「地元の人・市・施設等に学校が直接協力依頼できているから」との回答が複数あった。また、「取り組むテーマと一致していなかったため」、「時間的な余裕がない」との回答も複数あった。



(4) 講師派遣制度では、以下のような学習に無料で専門の講師を派遣しています。今後、活用してみたい分野はどれですか？次の1～9の項目(グラフ参照)から3つまで選んでください。

◇N=179

「ゴミ問題を通じた循環型社会形成、3Rについての学習」が最も多く95校(53.1%)、次いで「環境の現状と要因についての学習」が67校(37.4%)、「食と環境についての学習」が55校(30.7%)、「水生生物調査、野鳥観察、星空観察などの観察会」が50校(27.9%)であるが、1～8の項目それぞれに一定の関心が示された。



【設問6】

・貴校が取り組んできた環境教育の中で特徴的な取り組み
・貴校が環境教育を実践する上で、感じられている課題や改善点
等についてご自由にご記入ください。

■地域の自然環境の学習

- ・多くの学校で、地域周辺の川・干潟・海・ため池・山などをフィールドとして、自然のよさや不思議さを感じるとともに、生きもの・植物の観察・調査などの活動を行っている。それらをもとに環境保全の必要性を考え、水質調査や清掃活動、EM菌を使った浄化活動の実践につなげている取り組みも多く見られた。
- ・自然観察・調査や清掃活動には、地元の人々の参加協力をはじめ、専門家に関わってもらい、指導を受けている学校も多い。
- ・身近な自然の魅力や大切さを実感するとともに、地域の歴史や産業、用水の開発など先人の努力などとの関連も学び、郷土への愛着を深める取り組みが見られた。
- ・校内にビオトープがあり、四季を通して生き物や植物の観察を実施し、生態系について学んでいる取り組みもあった。
- ・海浜をフィールドとし、生き物調査のほか、地元の人々の話を聞いたり、自然海浜と人工海浜の比較調査したりなど、多角的に地域の自然に対する関心を高める取り組みが見られた。アカウミガメの保護活動(海岸清掃・採卵・孵化・飼育・放流)に取り組んでいる学校もあった。
- ・野外では、移動時間や天候などが制約になり、計画通りの実施が難しいことや、安定した調査結果が得難いことの悩みが出された。また、フィールドとしている場所の水質の悪化が見られることの懸念があった。
- ・観察記録を継続し、データを元に考察できるようにしていきたいとの意向の学校もあった。
- ・地元のアドバイザーの減少や高齢化の心配が数件あった。

■栽培・飼育の取り組み、地域の自然環境を生かした食や産業に関する体験学習

- ・低学年では花や野菜を育て、中学年ではチョウを育て、高学年では米作りをしている学校があった。ホタルの飼育、カイコの飼育・桑の栽培・糸とり、オオムラサキの飼育の取り組みもあった。
- ・米作り(田植え～かかし作り、脱穀)を体験している学校が複数あった。学校田のほか、地域の農家の田んぼを借りて実施し、農家やJAの協力を得て行われている。収穫した米を地元の人と食べる取り組みも見られた。
- ・海に近い学校では、塩作り、釣り、干物づくり、寒天づくり、魚・貝などの図鑑作り、いかだ作り、などに取り組み、地域の自然と食・産業を総合的に学習している事例があった。学校に竹林があり、間伐して整備するほか、タケノコ掘り、調理、給食食材として活用するなどの取り組みや、竹炭づくりを実施している学校もあった。
- ・森林総合センターで、森林と川や田畑、海とのつながりについて学習している学校があった。

■生活と環境との関連の学習

- ・浄水場、ごみ処理施設など、地域の施設を見学し、職員から解説を受けて、水の大切さやごみの減量、分別の必要性を学習する取り組みが多く見られた。
- ・社会の学習「水はどこから」との関連で、浄水場の見学とともに、水源を探検するなどによって水の大切さを知る取り組みが多かった。さらに、用水の清掃や、節水の活動に結び付けている事例も見られた。
- ・同じく「ごみはどこへ」について、ごみ処理施設の見学とともに、ごみの減量、分別、アルミ缶・ペットボトルキャップの収集、紙の両面使用、生ごみ処理機の利用など、具体的な実践につなげている取り組みも多く見られた。
- ・電気・水道の使用料や給食残渣量をグラフ化して掲示する、美化委員会が毎週ごみを計量し、放送でごみの減量や分別を呼びかける、発電施設のある学校では発電量の表示を行うなど、数値化に取り組み、効果の確認と実践意識の向上を図っている事例が見られた。
- ・家庭で期間を設定して節電・節水を実施し、活動の習慣化と大人への啓発などにも取り組んでいる事例が見られた。
- ・社会の学習として、自動車と環境問題に取り組んだ学校があった。
- ・ソーラーパネルや太陽発電に関する出前授業を行っている学校があった。
- ・エコクッキング、ミミズコンポスト、エコバック作り、緑のカーテン、バイオトイレ、風力発電・ミニダムの設置、上履きのリサイクルなど、様々な活動が見られた。

■ 美化活動

- ・学校および地域の清掃活動に定期的に取り組んでいる学校が多く見られた。
- ・環境委員会などの活動で実践し、教科外の取組みとして定着している様子が見られた。
- ・EM菌を使ってプール清掃している学校が複数あった。PTAの協力も見られた。
- ・ごみの不法投棄場所での警告ポスターづくりの取組みがあった。

■ 地域への発信、関わりへの促進として、次の事例があった。

- ・清掃活動で集まったごみの情報や学習した内容を発表する場を設け、地域の人にも聞いてもらっている。
- ・アルミ缶がどうリサイクルされているかや、地域の環境問題を劇にして発表し、校内や地域へ伝えている。
- ・調べた内容をマップにまとめたり、活動を紹介するリーフレットを児童が作成している。リーフレットはコミュニティーセンターに設置するなどして地域に発信している。
- ・学校だよりなどに、学習内容や保護者の協力を得た環境家計簿や環境標語などを掲載し、環境教育に対する家庭の理解を深めており、さらに双方向性を持たせようとしている。
- ・キャンドルナイトなど、地域の環境関連のイベントに参加している。
- ・「〇〇町ごみゼロ大作戦」として、学年ごとに分担場所を決めて活動している。
- ・運動場の芝生化に、児童をはじめ、保護者・地域の各種団体なども協力して取り組んでいる。
- ・育てた野菜や米のまとめ学習を発表し、保護者や地域の人々に感謝の気持ちとして、それらを使った料理をふるまっている。

■ 環境教育の位置づけ・カリキュラムに関しては、次のような対応があった。

- ・特定の教科の中でなく、教科横断的な扱いとして実施している。
- ・総合的な学習の時間と各教科(国語・社会・理科など)を関連させて取り組んでいる。
- ・給食指導、清掃時間、委員会活動など、発達段階に応じ、全学年で環境問題につながる指導をしている。
- ・食育と環境教育、教科をリンクして、教科で理論を学び、総合的な学習の時間の中で体験し、実践するという学習が実施できている。
- ・物を最後まで丁寧に使う、すみずみまで美しく清掃するなど、道徳や特別活動の時間にも環境教育を取り入れている。
- ・学校版環境ISOの認定を受け、ごみの軽減・分別、節電、節水、紙の再利用などに全校で取り組んでいる。
- ・野外での活動や資源回収活動において、縦割りの集団や、1年と6年・2年と5年のペアなど、学年別でない児童の構成で活動している。(複数あり、安全の確保や上学年による下学年へのおもいやりも育てるとの効果で紹介されていた。)
- ・夏休みの自由研究のテーマとして、自分の周りの環境問題に取り組んでいる。
- ・その他、子どもが意欲的に取り組むための工夫として、エコクイズ大会、エコ川柳、エコパトロール、木さがしオリエンテーリング、旬当てゲーム、地域の竹を使った箸などの道具づくり、ドングリや落ち葉で工作、木のプランターを親子で作成(卒業記念)などの、多彩な取組みが見られた。

■ 外部講師に関しては、次のような事例や感想があった。 (外部講師の協力を受けての効果については、【設問5】(2)参照。)

- ・「地域の水環境についての児童から分からないことが出てきても、質問できる方が地域にいない」、「通年支援してもらえるアドバイザーがいない」、「専門的な知識がある人が近くにいないので、試行錯誤の繰り返しになる」など、外部の協力を得たいが人材と出会えていない状況が見られた。
- ・環境カウンセラーの方に協力してもらい、複数年にわたって幅広く指導を受けている。
- ・講師への謝礼金が少なかったり、無償で協力してもらっていて、心苦しい。
- ・地域の様々な方に協力してもらっているが、連絡を取り合うのに苦労している。
- ・講師派遣制度は手続きや準備が煩雑な面もあるため、積極的に利用できない。
- ・児童が調べ学習に使うことができるホームページを知りたい。

■ 環境教育の企画に関する課題

- ・ 時間的なゆとりが無い、時間の確保が難しいとの声が複数あった。
- ・ 「年間計画が校内で十分検討できていない」、「学年間の系統性を見直し」、「6年間の見通しを持った段階的な目標設定、事前・事後の指導をしっかりと行いたい」など、環境教育の全体的な位置づけや、年間～長期的なカリキュラムの設計に懸念を持つ声が複数あった。
- ・ 総合的な学習の時間が削減されることから、「理科や社会などの教科で扱うことになるが、教科のねらいとの刷り合わせが必要」、「他教科等との関連など、年間指導計画の見直しが必要」との意見があった。
- ・ 「子どもの発達段階に応じた教材の開発や精選が必要」、「教員は専門的な知識が少ないため、教材研究に多くの時間とエネルギーが必要である」、「地域の環境教育教材の開発」など、教材作りに関する意見があった。
- ・ 「学校での実践や調べたことを、校内・家庭・地域に広げていくこと」、「学校・家庭・地域の人々が目標を話し合い、方向を絞って効果的に取り組むことが必要だが、話し合いが十分でない」という声の他、「社会(各家庭)や企業の環境に対する意識の低さ」を課題と感じているなど、地域社会における環境教育の関わりを求める意見があった。
- ・ 「予算(図書費・活動費)不足し、十分な活動ができない」、「施設見学は時間も費用もかかるので、取組み難しい」など、予算不足についての声があった。

■ 効果に関する課題として、次のような感想があった。

- ・ 「体験活動がその場の感想に終わり、持続する実践力を育成するにはいたっていない」、「児童は頭で理解はしていても実践に結び付けていくことが難しい」など、学習後の実践のフォローが課題との声が複数あった。
- ・ 昆虫の飼育やビオトープなど、常時観察できるものについては、変化が少ない時期には意欲の持続が難しいとの声があった。
- ・ 地球全体の環境問題を地域、自分たちの問題として捉えさせるのが難しい。

■ 学校の特性による制約から生じる課題として、次のような意見があった。

- ・ 児童数が少なく、行事が多いので、高学年児童にこれ以上負担をかけたくない。
- ・ 遠隔地にあるため、施設見学や実物に触れる学習が難しい。少人数のため、活動を広げることが難しい。
- ・ 大人数であるため、そろっての移動が困難である。
- ・ 区画整理された新興地域で、自然体験が難しい。